

1 女性教員のための「初歩から学ぶ」体育実技・授業づくりセミナー

目的

熊本県小学校教員の約6割は女性です。そして、その中には体育の授業に関する指導法等、悩みを抱えている方も多くいらっしゃいます。

そこで「初歩から学ぶ」というテーマで、女性教員を対象にした研修会を開催しました。小学校教員の多数を占める女性教員の指導力向上を図ることで、子供達の体力向上を目指しています。

開催内容

期日：令和元年8月8日（木） 会場：熊本県立総合体育館 参加者：58人

○実技①：「体づくり運動」 ○実技②：ラジオ体操 ○班別協議・演習

講師：実技①：富 幸子 教諭（八代市立松高小学校）

実技②：本田 恵美 一級ラジオ体操指導士

班別協議・演習：池田 幸彦 教育工学室長（県立教育センター）

研修会の様子

実技①「体づくり運動」

低学年の児童や運動が苦手と感じている児童も、楽しく体育学習に取り組むための指導法や活動例、場づくり、教材の活用等について、講師の富先生から多くのご示唆をいただきました。教材・教具については、身近にある新聞紙や風船、ロープなど様々な活用法があることを学びました。さっそく学校でやってみたいという声も多く聞かれました。



実技②「ラジオ体操」



体育の始まりや運動会等でも行う「ラジオ体操第一」ですが、普段指導法を学ぶ機会がなかなかありません。今回、ラジオ体操一級指導士の方から正しいラジオ体操の動きや指導法について学びました。初めて知る内容も多く、改めてラジオ体操について学ぶよい機会となりました。

班別協議・演習の様子

班別の協議・演習では「体育学習におけるICTの活用」について、マット運動を例に、タブレット端末を活用して、いかに授業を展開していくかを、小グループで協議しながら学びました。動きを動画で撮影し、スロー再生や他者との映像比較などを操作しながら、児童が意欲的に体育の授業に取り組むための指導法について協議しました。



成果

参加された先生方の声

- みんなが楽しく活動できる上に、運動量も確保できるものがあり、勉強になりました。
- いろいろな道具のアイデア一つで、いろいろな活動ができることを知りました。
- ラジオ体操は、手足を伸ばすところ、曲げるところなど動き方が詳しくわかりました。
- 自分の動きは、なかなか自分では確認できないので、学校でもICT等を活用したい。
- △ 自分の学校では、ICTの環境がまだ整っていないので、タブレット等の活用については、まだまだ難しそうでした。

2 小学校水泳実技・水難事故防止セミナー

目的

小学校教員を対象に、本年度の水遊び・水泳の授業実施時期を迎えるにあたり、水に親しむための水遊び等の活動の仕方、基本的な泳ぎ方（クロール・平泳ぎ）等における実技指導方法、学校プールにおける水難事故の防止及び応急処置等の方法について研修を行うことにより、本県児童の泳力の技能向上及び体力向上を図るとともに、水難事故防止に資することを目的に開催しました。

開催内容

期日：令和元年（2019年）6月6日（木） 会場：県立総合体育館プール
参加者：71人（小学校教諭等62人、特別支援学校教諭等9人）
内容：○説明：水難事故防止について
○研修①：泳法等の実技研修 研修②：事故防止・応急手当実技研修
講師：研修①：米田 拓二（県立熊本西高等学校教諭）
米原 浩司（合志市立西合志東小学校主幹教諭）
研修②：日本赤十字熊本 短期講習講師3人

研修の様子

説明「水難事故防止について」

体育保健課から「学校プールにおける水泳指導時の水難事故等の防止について」の説明を行いました。水難事故を防止するために、事前の安全対策やプールでの監視等の仕方、事故が発生した時の対処について説明しました。日頃から、先生方には行っていただいているものですが、これからも安全で充実した水遊びや水泳等の指導を行うために再確認していただきました。

研修①「水遊び・水泳等の実技研修」

研修①では、低学年等を対象とした水遊び活動、中・高学年等を対象とした水泳の実技研修が行われました。水遊び活動では、水中で楽しく行う水慣れの仕方、背浮きや伏し浮きの体の動かし方、け伸びや横泳ぎの指導法などを実際に体験して学びました。

水泳ではクロール・平泳ぎの正しいフォームや息継ぎを含めたコンビネーションの方法等、長く楽に速く泳ぐコツ等、とても専門的に学ぶことができ、今後の指導に役立つことができるような内容でした。



研修②「事故防止・応急手当実技研修」



研修②では、日本赤十字熊本から講師を招き、プールでの事故が発生した時の救助方法や応急手当（心肺蘇生法）等についての研修が行われました。いざという時にどう動くのか、実際に体験しながら学び、非常に参考になる内容のものが多かったようです。

成果

参加された先生方の声

- 水難事故を未然に防ぐために、学んだことを自校でしっかり実践していきたい。
- 水遊びでは、中・高学年につながる動き等、ねらいをもつことが大切とわかりました。
- 水泳では、指導法を細かい部分まで教えていただき、すぐに現場で使いたいです。
- 水中からの救助法については、もしもの時に冷静にできるように考えておきたい。
- △ 時間の都合上、説明だけのところもあったので、もう少し体験したかったです。